

授業科目(ナンバリング)	介護における医療的ケア I (DD307)			担当教員	大町いづみ		
展開方法	講義・演習	単位数	4 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという視点から、医療職との連携のもとで、安全・適切に実施できるよう、ディスカッション、グループワークなどを通して、必要な知識・技術を習得する。</p> <p>たんの吸引について、医療職との連携のもとで、安全・適切に実施できるように必要な基礎的学修とする。たんの吸引についてのシミュレーターを用いた演習により根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的な知識・実施手順方法を理解する。</p> <p>医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」等についての基礎的な知識を理解する。</p>							②③⑦⑧⑨⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	人体の構造と機能を理解し、救急蘇生法・喀痰吸引について医療職との連携のもとで、安全・安楽、適切に実施するために根拠に基づく基礎的な知識を理解したうえで実施できる。				定期試験 実技試験 授業態度・取組	25% 35%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援について理解できる。				ディスカッション 実技試験	5% 10%	
協働・課題解決力	利用者や家族、チームに対するコミュニケーション能力を高め、観察した事柄を的確に記録、報告するための基本的な技術について理解できる。				実技試験 課題レポート	10% 5%	
多様性理解力	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズと多様性について理解できる。				定期試験 実技試験	5% 5%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「定期試験」(30%)は、合格基準を60点以上とし筆記試験(持ち込み不可)を行う。「実技試験」(60%)は、医療的ケアに関する基礎知識を理解したうえで、安全・安楽、適切な技術、態度に基づく喀痰吸引について22回目より行う。たん吸引の実技については、シミュレーターを用いて客痰吸引・救急蘇生の実技チェックと「課題レポート」(5%)を課し、ポートフォリオ上にてフィードバックし共有する。「ディスカッション」(5%)は、ケアの根拠についての課題に基づいて発表したものを評価する。</p>							
授業の概要							
<p>医療現場で経験をもつ教員(医療的ケア教員資格保持者)が担当し、現場実践を活かした学修を行う。介護福祉士が医療的ケアを行うに至った背景や制度・法律、医療的ケアを安全・適切に実施するための基礎的知識技術、並びに喀痰吸引について、1~22回まで講義する。22回目で喀痰吸引の筆記テスト及びディスカッションを行う。知識の修得を確認した後23~30回で、救急蘇生法と口腔・鼻腔・気管カニューレ内の喀痰吸引について演習を実施し、技術の習得を確認する。適宜、ポートフォリオ等ICTも活用しながらフィードバックする。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：介護福祉士養成講座編集委員会(2019)最新・介護福祉士養成講座15『医療的ケア』中央法規出版株式会社 参考書：適宜紹介する 指定図書：介護福祉士養成講座編集委員会(2019)最新・介護福祉士養成講座15『医療的ケア』中央法規出版株式会社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>医療的ケアを介護福祉士が行うことの意味を自覚し、利用者の尊厳を守る行為として考えてほしい。医療的ケアは根拠に基づき安全、安楽に行う必要があり、生命に関わる行為であることをから、筆記試験、また、実技試験の修得に向けて、自ら学習し実技の練習を行うこと。医療的依存度の高い要介護者も増加しているが、要介護者の生活という視点を忘れずに、生活支援のあり方も同時に追求して欲しい。</p> <p>注意点：喀痰吸引についての演習、実技チェック・実技試験となるため、必要時に補講を行う。また本授業は50時間以上の講義を受けていないと単位の取得ができないため、欠席しないよう体調管理に留意すること。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	医療的ケア実施の基礎 人間と社会	医療的ケアの実施に関する制度の概要および個人の尊厳と自立等基本的な考え方について学ぶ	予習・復習：個人の尊厳
2	保健医療制度とチーム医療①	保健医療の制度や法律、倫理について学ぶ。	予習・復習：法律・倫理
3	保健医療制度とチーム医療②	医療的ケアと喀痰吸引の実施の背景について学ぶ。	予習・復習：医療的ケアの背景
4	保健医療制度とチーム医療③	社会のニーズと社会福祉士等の法制度の変遷について学ぶ。	予習・復習：法制度
5	安全な療養生活①	喀痰吸引の安全・安楽・適切な実施について学ぶ	予習・復習：安全な実施法
6	安全な療養生活②	救急蘇生法について学ぶ。人体解剖のプレゼンテーションを行う。	予習・復習：救急蘇生法
7	清潔保持と感染予防①	医療的ケアを実施するための感染予防について学ぶ。	予習・復習：感染予防
8	清潔保持と感染予防②	医療廃棄物の処理や、消毒滅菌、安全管理体制について学ぶ。	予習・復習：消毒・滅菌
9	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論①	呼吸のしくみと喀痰吸引について学ぶ。	予習・復習：呼吸器の解剖
10	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論②	人工呼吸と吸引について学ぶ。	予習・復習：急変時の観察
11	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論③	人工呼吸器装着者の生活上の留意点について学ぶ。	予習・復習：呼吸の異常、痰排出や貯留について
12	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論④	呼吸器系の感染と予防にについて学ぶ。	予習・復習：人工呼吸器装着者の対象について
13	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論⑤	ヒヤリ・ハット、アクシデントの実際と報告について学ぶ。	予習・復習：ヒヤリ・ハットアクシデントについて
14	高齢者および障害児・者の喀痰吸引手順①	小児の吸引の留意点、吸引の説明 吸引器具、器材とそのしくみや清潔保持について学ぶ。	予習・復習：小児の吸引の留意点、説明と清潔方法
15	高齢者および障害児・者の喀痰吸引手順②	吸引前の観察項目と実施手順について学ぶ。	予習・復習：吸引時の観察項目と実施手順
16	高齢者および障害児・者の喀痰吸引手順③	喀痰吸引に伴うケア、痰吸引の危険防止について学ぶ	予習・復習：痰吸引の危険防止、安全管理について
17	高齢者および障害児・者の喀痰吸引手順④	急変・事故発生時の対応や、事前の医療職との連携・体制について学ぶ。たん吸引実施の必要物品を確認する。	予習・復習：急変・事故発生時の対応
18	「喀痰吸引」の実実施手順①	たん吸引で用いる必要物品のしくみ、必要物品の清潔保持、準備・設置方法、留意点について学ぶ。	予習・復習：必要物品の機能について
19	「喀痰吸引」の実実施手順②	吸引前の利用者の状態観察と留意点、ならびに利用者の準備方法と留意点について学ぶ。	予習・復習：吸引前の観察項目と準備について
20	「喀痰吸引」の実実施手順③	吸引実施の手順と吸引中の留意点、吸引実施に伴う利用者の身体変化の確認や医療職への報告について学ぶ。	予習・復習：吸引手順と医療職への報告について
21	「喀痰吸引」の実実施手順④	吸引実施後の吸引物の確認と医療職への報告、片づけ方法と留意点についても学ぶ。	予習・復習：吸引物のケア、記録、後片付けについて
22	「喀痰吸引」の実実施手順⑤ 筆記テスト	1～21回の内容に関するテストを行う。 喀痰吸引についてディスカッションを行う。	予習・復習：医療的ケア全般の理解、喀痰吸引の医学的知識の理解
23	救急蘇生法の演習	救急蘇生法をシミュレーターを用いて実施する (ゲストスピーカー・大町)	予習・復習：救急蘇生法
24	「喀痰吸引」の演習①	喀痰吸引の手順の確認、ならびに必要物品を確認する。	予習・復習：吸引手順習得
25	「喀痰吸引」の演習②	口腔内喀痰吸引をデモンストレーションで確認する。	予習・復習：吸引手順習得
26	「喀痰吸引」の演習③	鼻腔内喀痰吸引をデモンストレーションで確認する	予習・復習：吸引手順習得
27	「喀痰吸引」の演習④	気管カニューレ内の喀痰吸引をデモンストレーションで確認する。	予習・復習：吸引手順習得
28	「喀痰吸引」の演習⑤	口腔内喀痰吸引をシミュレーターを用いて実施する。 (ゲストスピーカー・大町)	予習・復習：吸引手順習得
29	「喀痰吸引」の演習⑥	口腔内喀痰吸引をシミュレーターを用いて実施する。 (ゲストスピーカー・大町)	予習・復習：吸引手順習得
30	「喀痰吸引」の演習⑦	口腔内喀痰吸引をシミュレーターを用いて実施する。 (ゲストスピーカー・大町)	予習・復習：吸引手順習得